

仙台市介護保険審議会 地域包括支援センター運営委員会
(第7期計画期間 第4回会議) 議事録

日時：平成31年2月12日(火) 19:00~20:00

場所：仙台市役所本庁舎2階 第4委員会室

〈出席者〉

【委員】

井野一弘委員長、岩渕秀子委員、駒井伸也委員、長野正裕委員、森高広委員、若生栄子委員
以上6名五十音順(大内修道委員、佐藤功子委員、鈴木峻委員、橋本啓一委員欠席)

【仙台市職員】

郷家保険高齢部長、伊勢高齢企画課長、松本地域包括ケア推進課長、木村地域包括ケア推進課認知症対策担当課長、中村介護保険課長、藤井介護事業支援課長、高橋地域包括ケア推進課推進係長

〈議事要旨〉

1 開会

- 会議の公開・非公開の確認
会議の公開 → 異議なし
- 議事録署名委員の指定
長野委員を指定

2 報告

平成31年度 地域包括支援センター職員の配置について
松本地域包括ケア推進課長から説明(資料1、参考資料1)

【質疑応答】

森 委 員：報告された次年度のセンターの人員配置については、仙台市の定める基準に則ったものであり当然のものと理解している。それに関連して一つ確認したい。前回の運営委員会で配布された地域包括支援センター一覧に記載されている圏域内高齢者数について、長町と山田が両方とも7,527人となっているが、これは偶然一致したものか。

松 本 課 長：念のため確認し、誤りがあれば後日ご報告させていただく。^(※)

※委員会終了後に確認したところ、資料の誤りではなかった。

森 委 員：仙台市の圏域設定の考えを聞きたい。圏域内高齢者数が 8,000 人を超える見込みであった寺岡と虹の丘が、平成 30 年度から中学校区で分割された。平成 30 年 10 月 1 日時点の圏域内高齢者数を見ると、あやし、長町、山田の 3 センターで約 7,000 人を超えるような状況である。また、仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に記載されている高齢者人口の推移をみると、平成 29 年から平成 37 年度にかけて、高齢者数が約 13 パーセント増加する見込みとなっている。現在の各センターの圏域内高齢者数に、単純に 13 パーセントを乗じて加えると、8 センターで 7,000 人を超え、そのうち 3 センターでは 8,000 人近くとなる計算である。こうした状況を踏まえ、今後、仙台市のセンターの体制整備の方針として、各センターの人員増で対応するのか、あるいは圏域分割（センターの増設）で対応するのか、どちらで考えているのかを伺いたい。

松 本 課 長：結論から申し上げますと、センターの人員増と圏域分割、その両方を検討しつつ対応することになる。仙台市では、日常生活圏域は中学校区を基本に設定しているが、現状として、包括 52 センターに対して、中学校区は 63 校区という状況である。今回、平成 31 年度についてはセンターの人員増で対応するものだが、3 年に 1 度の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に合わせ、センターの圏域見直しを行うこととなる。その際、圏域内高齢者数がおおむね 6,000 人を超えるセンターについて、そのセンターが複数の日常生活圏域（中学校区）を有していれば、基本的には中学校区毎に分割することになる。ただし、分割により圏域毎の高齢者数のアンバランスが生じる場合等は、人員増で対応するケースもある。さらに、長町包括のように担当圏域が一つの日常生活圏域（中学校区）で構成される場合は基本的には人員増による対応となり、圏域をさらに細かく分割して対応することについては議論する必要がある。このように、担当する地域の状況を見ながら、センターの人員増と圏域見直し、どちらの対応をとるか検討していくこととなる。なお、本市基準でいうと、おおむね 6,000 人を超える部分について、おおむね 2,000 人毎に 1 人の人員増としているので、今後、圏域内高齢者数が 8,000 人を超え 10,000 人までのセンターが出てきたときには、さらに 1 人増員ということもあり得る。

森 委 員：6,000人を超えた部分の2,000人毎に1人の増員ということで、仙台市では機能強化専任職員も配置されるので実質はさらに1人追加となるだろうが、現状として、包括職員がかなり忙しいという話を聞いている。8,000人を超え

る高齢者に対して、センターの人員増では対応しきれなくなるのではないかと感じている。包括の充実を図っていく上では、学校区のみにとらわれない、実情に応じた形での圏域設定を行うことも考えていただければと思う。

井野委員長：ほかに質問等なければ、「平成 31 年度 地域包括支援センター職員の配置について」は以上でよろしいか。

(一同了承)

井野委員長：それでは、報告については以上とする。

3 議事

平成 31 年度仙台市地域包括支援センター運営方針（案）及び業務水準表（案）について

松本地域包括ケア推進課長から説明（資料 2、資料 3、参考資料 2）

【質疑応答】

若生委員：業務水準表（案）の 4. 認知症関連業務の③地域における支援体制づくりの「取組を進めることが望ましい水準」に、「仙台市認知症の人の見守りネットワーク事業等を活用して、認知症の人を地域で見守るネットワークの構築に取り組んでいる」という項目が設定された。メール配信により見守りを行う事業は、それによって発見される方もおり、とても良いと思っている。その中で、見守りの意識が過度に高まると、例えば、本人がちょっと外に出ただけで通報されてしまうといった、見張りのような状況になってしまうのではないかと感じている。もちろん、命に関わることなので大切なだけけれども、当事者が“見守り”ではなく“見張り”と感じてしまうことがないよう、住民の方に意識していただくような周知をして欲しいと思う。

木村課長：いただいたご意見のとおり、「地域の中で認知症の人を見守る」ということと、本人がそれをどう受け止めるかという考えは大切だと認識している。現在行っている認知症サポーター養成講座、今年度より始まったパートナー講座等を通じて、認知症の人の気持ちを大事にしながら見守るということを少しずつ地域に広めていきたいと考えている。今後も、認知症の人やその家族の意見を伺いながら、取組を進めていきたい。

森委員：業務水準表について考えを述べさせていただく。「取組を進めることが望ましい水準」とは「満たすべき水準」を達成したうえで何に取り組むか、各セ

ンターが自由に決める項目のように思う。そうすると、各センターで取組の重点・優先順位がまちまちになるのではないか。事業評価は、ある意味では、仙台市からセンターへの通信簿のようなものだと思っているが、共通の評価項目があればいいが、各センターがバラバラに重点事項を掲げて事業を進めていくなかで、実態を正しく評価できているのか、という風に考えられる。仙台市として、最低限の達成基準を設定してやらないとセンターも取組の進め方がわからないのではないか。

松本課長：本市では今年度の事業評価は、国の基準に基づいて行う事業評価Ⅰと、市独自基準に基づいて行う事業評価Ⅱの二本立てで実施している。事業評価Ⅰでは客観的な評価指標を用いて定量的な評価を行った。一方、事業評価Ⅱでは、業務水準表に基づき「満たすべき水準」で一定のレベルを示したうえで、「取組を進めることが望ましい水準」を設けている。こちらは、望ましい水準の項目については、地域の実情に応じてある程度地域の特色が出て来るものだと考えている。職員が実地で行うヒアリング等を通じて、業務の中身について評価を行うほか、センターの業務の参考になるような好事例については他のセンターにも紹介するなどの形で、全体へのフィードバックを図っている。

駒井委員：運営方針及び業務水準表をみると、センターにとって、業務水準のハードルが高くなっている印象を受ける。特に医療介護の連携について、センターが地域の医療関係者とネットワークを構築するということは、かなりハードルが高いという話を個別に聞いている。それに対して、仙台市としてセンターを支援する具体的な方策はあるか。

松本課長：運営方針及び業務水準表の見直しに当たっては、市全体のレベルアップを目指す一方で、個々のセンターの業務負担増も考慮しなければならないと認識している。センターの実情を伺いながら、例えば、多くのセンターで既に達成できているような項目は「満たすべき水準」に、現状では達成が難しいと考えられる項目は、先ず「望ましい水準」に設定するというやり方をしている。また、センターの努力だけではうまくいかない業務もあると考えているので、センターからご相談をいただきながら、どのような支援があればできるようになるのか考えていきたい。

郷家部長：医療介護の連携に対する支援策について補足させていただく。仙台市では、医師会の協力のもと今年度2月から在宅医療・介護連携相談窓口を開設して

いる。センターの職員等にこの相談窓口を活用してもらい、地域における医療介護連携の取組を進めていただきたいと考えている。

井野委員長：ほかに質問等なければ、「平成 31 年度仙台市地域包括支援センター運営方針（案）及び業務水準表（案）について」は以上でよろしいか。

（一同了承）

井野委員長：それでは、当議案を承認とする。

4 その他

大倉地域包括支援センターの名称変更予定について

松本地域包括ケア推進課長から説明

【質疑応答】

特になし

井野委員長：ほかに意見・質問等なければ、「その他」は以上でよろしいか。

（一同了承）

井野委員長：それでは、「その他」は以上とする。

5 閉会